

# 早期発見・早期治療のために がん検診を受けましょう



日本ではがんが原因で亡くなる人が多く、1981年から40年間、死因第1位の状況が続いています。しかし、治療技術は進歩を続けており、早期発見すれば、がんを治すことができる可能性は非常に高くなっています。がんから大切な命を守るために、定期的ながん検診を受けましょう。

## ◎検診を受けないと早期発見は難しい

多くのがんは、初期の段階では自覚症状がありません。しかし、症状がなくても、がんは少しずつ体を蝕み、自覚症状が現れたときには命の危険にさらされていることも珍しくないのです。十分に治療が可能な段階でがんを早期発見するには、検診を定期的に受けることがたいへん重要です。



## ◎早期治療で100%近く治るがんも

がんは、早期に発見すればするほど、治療する可能性が高くなります。特に大腸がんや乳がんなどは、初期の「ステージI」の段階で発見できれば**5年生存率は100%に近い**ので、検診で早期発見・早期治療に努めるようにしましょう。



## ◎がん検診の種類と方法

厚生労働省では、科学的根拠に基づいて効果があると認められた次の**5種類のがん検診を推奨**しており、お住まいの自治体で検診が受けられます。ここしばらく、新型コロナの影響で受診を控える人が増えましたが、検診機関ではしっかりと感染対策を行っているので、対象者は忘れずに受診するようにしましょう。

**胃がん**

カメラで胃の内部を直接観察する内視鏡検査またはバリウムを服用して胃をさまざまな角度から撮影するエックス線検査を行います。

《対象者》  
[内視鏡検査]50歳以上の男女/2年に1回  
[エックス線検査]40歳以上の男女/年1回

**肺がん**

肺全体をエックス線で撮影して、主に肺野部のがんを見つけます。医師が必要と認めた場合、痰を採取して調べる喀痰細胞診も行います。

《対象者》  
40歳以上の男女/年1回

**大腸がん**

専用のキットを使用して自分で採取した便を検診機関に提出し、便に血液が混じっていないかどうかを調べる便潜血検査を行います。

《対象者》  
40歳以上の男女/年1回

**乳がん**

マンモグラフィと呼ばれる専用の装置を用いて、乳房のエックス線撮影を行います。(視診、触診は推奨されていません。)

《対象者》  
40歳以上の女性/2年に1回

**子宮頸がん**

子宮の入り口付近に発症する子宮頸がんの検査です。子宮頸部の細胞を綿棒やブラシなどで採取し、がん細胞の有無を調べます。

《対象者》  
20歳以上の女性/2年に1回



## 精密検査は必ず受けることが大切です

がん検診の結果、「要精密検査」と判定された場合には、必ず精密検査を受けることが重要です。精密検査を受けなければ、せっかくの早期発見の機会を逃してしまうことになります。

また、がん検診の精度は100%ではありません。気になる症状がある場合には、検診とは別に、すぐに医療機関を受診するようにしましょう。

